



2020年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年2月7日

上場会社名 古河機械金属株式会社
 コード番号 5715 URL <https://www.furukawakk.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長
 四半期報告書提出予定日 2020年2月13日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 (氏名) 宮川 尚久
 (氏名) 三影 晃
 TEL 03-3212-7021

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	122,309	5.6	6,307	2.0	6,604	19.0	4,440	18.3
2019年3月期第3四半期	129,543	5.7	6,181	1.7	5,550	23.9	3,752	12.4

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 5,745百万円 (%) 2019年3月期第3四半期 1,333百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	112.30	
2019年3月期第3四半期	93.33	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	228,299	84,192	35.8
2019年3月期	215,368	80,447	36.3

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 81,824百万円 2019年3月期 78,216百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		0.00		50.00	50.00
2020年3月期		0.00			
2020年3月期(予想)				50.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	164,000	5.8	7,600	14.8	7,200	12.6	4,800	3.1	121.39

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期3Q	40,445,568 株	2019年3月期	40,445,568 株
期末自己株式数	2020年3月期3Q	904,366 株	2019年3月期	904,102 株
期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期3Q	39,541,309 株	2019年3月期3Q	40,211,913 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に掲載される業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
2020年3月期 第3四半期決算短信 補足資料	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2019年4月1日から同年12月31日まで)においては、米中貿易摩擦の長期化や中国経済の減速、英国のEU離脱問題等、海外情勢の先行き不透明感を背景とする海外需要の低迷や、令和元年台風第15号・19号など、相次ぐ自然災害による生産の停止などの影響が懸念される一方で、人手不足や働き方改革対応のための省力化投資、老朽化設備の維持更新投資、また、関連予算の執行により公共投資も堅調で、我が国経済は、一進一退の状況が続きました。

このような経済環境の下、当社グループの当第3四半期連結累計期間の売上高は、1,223億9百万円(対前年同期比72億33百万円減)、営業利益は、63億7百万円(対前年同期比1億25百万円増)となりました。機械事業では、ロックドリル部門は、減収減益となりましたが、産業機械、ユニック部門の増収増益により、全体では増収増益となりました。また、素材事業では、金属部門の減収と、電子部門の減収減益により、全体では減収減益となりました。

各報告セグメントの売上高と営業利益の状況は、以下のとおりです。

[産業機械]

産業機械部門の売上高は、156億81百万円(対前年同期比39億76百万円増)、営業利益は、17億31百万円(対前年同期比9億38百万円増)となりました。

マテリアル機械では、中間貯蔵施設(福島県双葉郡双葉町)向け関連設備の売上を計上し、増収となりました。また、大型プロジェクト案件では、東京外環自動車道工事向けベルトコンベヤ、小名浜港湾国際バルクターミナル向けの荷役設備、中間貯蔵施設(福島県双葉郡大熊町)向けベルトコンベヤ等について出来高に対応した売上を計上し、増収となりました。

[ロックドリル]

ロックドリル部門の売上高は、203億80百万円(対前年同期比28億61百万円減)、営業利益は、2億円(対前年同期比12億円減)となりました。

国内では、トンネルドリルジャンボについては、熊本地震復旧・復興工事向けなどの出荷があった前年同期と比べ減少し、減収となりましたが、都市再開発や建設投資などの継続した需要を背景に、油圧ブレーカや油圧クローラドリルなどの出荷は好調を維持し、売上高は前年同期並みとなりました。海外では、特に北米において、油圧クローラドリルの出荷が、排ガス3次規制機の出荷が好調であった前年同期と比べ減少し、また、その他の地域は、市況悪化により総じて振るわず、減収となりました。

[ユニック]

ユニック部門の売上高は、241億50百万円(対前年同期比23億83百万円増)、営業利益は、32億21百万円(対前年同期比11億16百万円増)となりました。

国内では、主力製品であるユニッククレーンは、移動式クレーン構造規格の一部改正(昨年3月実施)前に、駆け込み需要があった受注機の出荷増のほか小型トラックの排ガス規制(昨年9月実施)前の駆け込み需要により、増収となりました。海外では、売上高は前年同期並みとなりました。

産業機械、ロックドリルおよびユニックの機械事業の合計売上高は、602億13百万円(対前年同期比34億97百万円増)、営業利益は、51億53百万円(対前年同期比8億54百万円増)となりました。

[金属]

金属部門の売上高は、504億94百万円(対前年同期比97億44百万円減)、営業利益は、2億84百万円(対前年同期比33百万円減)となりました。

電気銅の海外相場は、6,498米ドル/トンで始まりましたが、米中貿易摩擦の長期化懸念などから昨年9月3日には年初来安値である5,537米ドル/トンをつけました。期末にかけ6,000米ドル/トンを回復いたしましたが、総じて軟調に推移しました。電気銅の販売数量は、委託製錬数量削減により減少し、また、海外相場の下落もあり減収となりました。電気金は、生産数量の減少に伴い減収となりました。

[電子]

電子部門の売上高は、41億20百万円（対前年同期比8億44百万円減）、営業利益は、7百万円（対前年同期比3億72百万円減）となりました。

高純度金属ヒ素は、主要用途である化合物半導体用などの需要が、2019年初から国内、海外向けともにユーザーの在庫調整により低迷しており、減収となりました。また、結晶製品は、個別半導体用などで需要が軟化しており、減収となりました。

[化成品]

化成品部門の売上高は、50億94百万円（対前年同期比4億50百万円増）、営業利益は、4億16百万円（対前年同期比80百万円増）となりました。

硫酸は、販売数量は減少しましたが、2018年下期以降実施した価格改定による販売単価の上昇や低鉄硫酸など販売単価の高い製品の増加により、増収となりました。また、亜酸化銅、めっき用酸化銅は、販売数量が増加し、増収となりました。

金属、電子および化成品の素材事業の合計売上高は、597億9百万円（対前年同期比101億38百万円減）、営業利益は、7億8百万円（対前年同期比3億25百万円減）となりました。

[不動産]

不動産事業の売上高は、18億31百万円（対前年同期比5億28百万円減）、営業利益は、5億72百万円（対前年同期比4億10百万円減）となりました。

主力ビルである室町古河三井ビルディング（商業施設名：COREDO室町2）における大口テナント減床の影響や、古河大阪ビルのテナントの退出により、減収となりました。なお、古河大阪ビルは、昨年12月末をもって閉館いたしました。

当第3四半期連結累計期間の経常利益は、持分法投資損益の改善4億35百万円、テナント退去補償関連費用引当金戻入益2億59百万円の計上などにより、66億4百万円（対前年同期比10億54百万円増）となりました。特別利益に古河大名ビル（福岡県福岡市中央区）の売却益5億83百万円ほかを計上し、親会社株主に帰属する四半期純利益は、44億40百万円（対前年同期比6億87百万円増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、2,282億99百万円で前連結会計年度末に比べ129億31百万円増加しました。これは主として、現金及び預金、商品及び製品ならびに上場株式の株価上昇による投資有価証券の増加によるものです。有利子負債（借入金）は、759億16百万円となり、前連結会計年度末に比べ33億19百万円増加しました。純資産は、841億92百万円で、前連結会計年度末に比べ37億45百万円増加しました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、前回（2019年11月8日）発表の業績予想から変更しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,329	17,640
受取手形及び売掛金	30,668	30,154
商品及び製品	14,966	17,896
仕掛品	11,086	12,025
原材料及び貯蔵品	12,564	11,753
その他	3,964	8,129
貸倒引当金	△138	△163
流動資産合計	87,441	97,436
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	22,670	23,431
土地	53,911	53,461
その他(純額)	11,707	12,554
有形固定資産合計	88,289	89,447
無形固定資産	257	340
投資その他の資産		
投資有価証券	33,066	34,905
その他	6,906	6,748
貸倒引当金	△593	△578
投資その他の資産合計	39,379	41,074
固定資産合計	127,926	130,863
資産合計	215,368	228,299

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,691	13,815
電子記録債務	12,232	13,404
短期借入金	17,204	16,975
未払法人税等	760	424
引当金	764	73
その他	16,722	20,098
流動負債合計	60,376	64,791
固定負債		
長期借入金	55,392	58,941
引当金	79	77
退職給付に係る負債	8,800	8,509
資産除去債務	224	228
その他	10,046	11,558
固定負債合計	74,544	79,314
負債合計	134,920	144,106
純資産の部		
株主資本		
資本金	28,208	28,208
利益剰余金	41,892	44,512
自己株式	△1,276	△1,276
株主資本合計	68,824	71,443
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,339	10,501
繰延ヘッジ損益	12	41
土地再評価差額金	2,780	2,624
為替換算調整勘定	△350	△587
退職給付に係る調整累計額	△2,389	△2,199
その他の包括利益累計額合計	9,392	10,380
非支配株主持分	2,230	2,368
純資産合計	80,447	84,192
負債純資産合計	215,368	228,299

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年 4月 1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年 4月 1日 至 2019年12月31日)
売上高	129,543	122,309
売上原価	110,209	102,855
売上総利益	19,333	19,454
販売費及び一般管理費	13,151	13,146
営業利益	6,181	6,307
営業外収益		
受取配当金	670	711
その他	451	842
営業外収益合計	1,122	1,554
営業外費用		
支払利息	426	381
休鉱山管理費	509	530
その他	818	345
営業外費用合計	1,753	1,257
経常利益	5,550	6,604
特別利益		
固定資産売却益	9	595
その他	84	35
特別利益合計	94	630
特別損失		
減損損失	48	240
その他	22	200
特別損失合計	70	441
税金等調整前四半期純利益	5,573	6,793
法人税、住民税及び事業税	870	1,204
法人税等調整額	796	979
法人税等合計	1,667	2,184
四半期純利益	3,906	4,609
非支配株主に帰属する四半期純利益	153	169
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,752	4,440

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年 4月 1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年 4月 1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	3,906	4,609
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△5,283	1,157
繰延ヘッジ損益	△67	29
為替換算調整勘定	△53	△246
退職給付に係る調整額	214	190
持分法適用会社に対する持分相当額	△51	4
その他の包括利益合計	△5,239	1,135
四半期包括利益	△1,333	5,745
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,476	5,585
非支配株主に係る四半期包括利益	142	159

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日 至2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					
	産業機械	ロックドリル	ユニック	金属	電子	化成品
売上高						
外部顧客への売上高	11,705	23,242	21,767	60,239	4,964	4,643
セグメント間の 内部売上高又は振替高	2,355	0	104	173	0	39
計	14,060	23,243	21,871	60,412	4,965	4,683
セグメント利益又は損失 (△)	793	1,401	2,104	317	380	335

(単位:百万円)

	報告セグメント		その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	不動産	計				
売上高						
外部顧客への売上高	2,360	128,923	619	129,543	—	129,543
セグメント間の 内部売上高又は振替高	15	2,688	1,222	3,911	△3,911	—
計	2,375	131,611	1,842	133,454	△3,911	129,543
セグメント利益又は損失 (△)	983	6,316	△87	6,229	△47	6,181

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、運輸業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△47百万円には、セグメント間取引消去26百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△73百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない「金属鉱山跡資産」および「炭鉱跡資産」関連費用です。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					
	産業機械	ロックドリル	ユニック	金属	電子	化成品
売上高						
外部顧客への売上高	15,681	20,380	24,150	50,494	4,120	5,094
セグメント間の 内部売上高又は振替高	2,249	4	115	187	—	40
計	17,930	20,385	24,265	50,681	4,120	5,134
セグメント利益又は損失 (△)	1,731	200	3,221	284	7	416

(単位:百万円)

	報告セグメント		その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	不動産	計				
売上高						
外部顧客への売上高	1,831	121,754	555	122,309	—	122,309
セグメント間の 内部売上高又は振替高	11	2,608	1,228	3,837	△3,837	—
計	1,842	124,362	1,784	126,147	△3,837	122,309
セグメント利益又は損失 (△)	572	6,434	△72	6,361	△54	6,307

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、運輸業等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△54百万円には、セグメント間取引消去18百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△72百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない「金属鉱山跡資産」および「炭鉱跡資産」関連費用です。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

前提

		今回予想	対前年同期増減
銅価	第3四半期累計決算 \$/mt	5,933	△ 448
	年度予想 \$/mt	5,882	△ 459
為替	第3四半期累計決算 円/\$	108.7	△ 2.5
	年度予想 円/\$	108.7	△ 2.2

2020年3月期 第3四半期決算短信 補足資料

2020年2月7日

古河機械金属株式会社

〔売上高〕

(単位:百万円 単位未満切捨て)

	2019年3月期 第3四半期累計期間	2020年3月期 第3四半期累計期間	対前年同期増減
機械事業	56,715	60,213	3,497
産業機械部門	11,705	15,681	3,976
ロックドリル部門	23,242	20,380	△ 2,861
ユニック部門	21,767	24,150	2,383
素材事業	69,848	59,709	△ 10,138
金属部門	60,239	50,494	△ 9,744
電子部門	4,964	4,120	△ 844
化成品部門	4,643	5,094	450
不動産事業	2,360	1,831	△ 528
その他	619	555	△ 63
【合計】	129,543	122,309	△ 7,233

2020年3月期	
年度予想	対前年増減
82,600	5,019
23,600	5,628
27,300	△ 3,072
31,700	2,462
78,300	△ 14,422
66,200	△ 13,867
5,500	△ 1,027
6,600	472
2,300	△ 699
800	△ 14
164,000	△ 10,116

〔営業利益〕

	2019年3月期 第3四半期累計期間	2020年3月期 第3四半期累計期間	対前年同期増減
機械事業	4,299	5,153	854
産業機械部門	793	1,731	938
ロックドリル部門	1,401	200	△ 1,200
ユニック部門	2,104	3,221	1,116
素材事業	1,033	708	△ 325
金属部門	317	284	△ 33
電子部門	380	7	△ 372
化成品部門	335	416	80
不動産事業	983	572	△ 410
その他	△ 87	△ 72	14
(計)	6,229	6,361	132
調整額	△ 47	△ 54	△ 6
【合計】	6,181	6,307	125

2020年3月期	
年度予想	対前年増減
6,800	232
2,700	611
300	△ 1,389
3,800	1,010
350	△ 1,046
0	△ 581
△ 150	△ 557
500	93
600	△ 563
△ 100	47
7,650	△ 1,330
△ 50	14
7,600	△ 1,315

※参考情報(以下の数値は参考値です)

1.産業機械部門受注残

産業機械については主に受注生産を行っており、当第3四半期会計期間末における受注残を示すと、次のとおりです。

	2019年3月期 第3四半期会計期間末	2020年3月期 第3四半期会計期間末	対前年同期増減
受注残	161億円	113億円	△ 47億円

2.金属部門の金属価格変動影響による損益について

	2019年3月期 第3四半期累計期間	2020年3月期 第3四半期累計期間	対前年同期増減
営業利益	3.1億円	2.8億円	△ 0.3億円
内価格影響分	△ 0.2億円	2.3億円	2.5億円
銅	(△ 0.0億円)	(△ 1.4億円)	(△ 1.3億円)
金	(0.1億円)	(3.7億円)	(3.6億円)